

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300105		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家七隈		
所在地	福岡県福岡市城南区七隈7-8-15		
自己評価作成日	平成29年1月9日	評価結果確定日	平成29年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosvoCd=4091300105-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成29年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家での生活の延長として、家事や趣味活動などできることはご利用者様にも可能な限りしていただき、お一人お一人の出来る事に着目して役割作りを支援しています。昼食はスタッフも同じものを一緒に食べるなどご利用者様と家族の様に暖かい関係性を築いています。ご家族とは日々変化があれば連絡をとり、年に数回は家族会として行事にも参加していただき、日頃の様子を伝えたり意見交換の場としています。またホームの中だけにとどまらず、地域にも貢献し助け合いの関係ができるよう、月に1回、地域のボランティアやご家族、他施設等が参加される七隈カフェを開催し交流をはかったり、ご利用者様と地域行事に参加したりスタッフが行事手伝いをしたり等積極的ににかかわっています。それに加え、スタッフ間の人間関係も7良好にできるよう適宜面談や、法人内のほめカードを活用するなど工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所名としている「たのしい家」を作れるように、事業所理念の一つである『入居者とスタッフが一緒に笑って過ごす』ことを目標として、家事を中心とした日常生活の中で、できる部分の役割を發揮してもらい、入居者の笑顔を引き出している。食事作りでは味付けなどを話題に、入居者とスタッフが一緒に作り一緒に食事することで“ひとつの家族”ができています。リビングには年間行事の予定表が目につき易いところに貼ってあり、日付と合わせて確認できるので安心感がある。この提案は前回の運営推進会議で出された意見をとりあげ、すぐに対応していた。定期的に継続している七隈カフェは、入居者が外部の方と交流する事で、身だしなみに気を配ったり、高齢者どうしのコミュニケーションができたりと良い刺激となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「七隈の誓い」として施設の理念をかかげ、申送りで読み合わせを行っている。また地域の行事にはご利用者様と参加したりスタッフが手伝いに行っており、施設行事にも地域の方へ参加を呼び掛けている。	リビングの壁には、スタッフが座った位置で目に付く高さに理念が貼ってあり、常に自分がやっていることの振り返りができ確認している。特に理念の中の、入居者個々の残存能力を引き出し、家事に加わってもらい、共に笑顔で助け合って生活していくことに努めている。	事業所理念の「七隈の誓い」を、更に認識して仕事していくために、年ごと、または月ごとに細分化して特化していく行動計画を、スタッフと一緒に作ることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に2回のふれあいサロンに数名参加している。施設に地域のボランティアに来て頂きお話や園芸披露等で交流していただいている。	自治会から地域行事の情報をもらい、なるべく参加できるように努めている。尺八・ピアノの演奏ボランティアに来てもらい、唱歌などを唄う音楽療法をしながら外部との交流ができている。保育園児が散歩中に立ち寄ることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の「介護者のつどい」にて見守りサポートを行ったり、月に1回七隈カフェを開催することでご入居者様と地域、ご家族、他施設等との交流を図れる機会をもっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、ご利用者様やご家族をはじめ様々な関係機関に参加していただいている。そこで現状や活動等報告し、いただいた意見は周知しサービス改善に活かしている。	運営推進会議出席者は、行政、地域同業者、訪問医療クリニック、入居者、家族と多岐にわたり、色々な意見や情報交換ができる会議となっている。前回の会議では、事業所の年間行事予定表を分かり易く壁に貼る提案が、入居者と他の事業所から出され、すぐに対応していた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自施設、他施設の運営推進会議や地域密着型サービス部会等にて交流を図りながら事業所の実情やサービスの取組み等について情報交換をしている。	頻繁に地区行政の担当者と会う機会があり、日頃の様子を伝えて話しやすい関係ができている。他事業所と待機者情報を交換して、地域で孤立しない様な高齢者の見守りを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回法人内で研修を行っており、身体拘束にあたる内容への理解を深め、拘束をしないケアへの取組みに努めている。	ベッド下のセンサーマット使用は夜間時の安全対策として、家族了解の元に念のため置いている事例はある。法人内研修が毎年行われており、不適切な声かけがない様に、スタッフの理解を拡げるために、気付いたらすぐに指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回法人内で研修を行っており、虐待にあたる内容への理解を深め、虐待をしないケアへの取組みに努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や後見人制度を活用されているご入居者様がいて、学ぶ機会となっている。	事業所でこれらの制度を利用している方々がいるため、現状を把握でき、研修もしている。社会福祉協議会、後見人の方が来設された時に色々な話をする機会がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等の際はきちんと不安や疑問点等をその場で尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。また改定等の際は文書や口頭でその旨を伝えている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議、当社からのサービス満足度アンケート実施、意見箱の設置等を行いながら、常に意見や要望を聞ける環境作りを努めている。	家族の意見は年に4回ほど行事やレクリエーションの時にアンケートをとり、なるべく多くの方の意見を聞く体制作りができています。	家族アンケートの実施は頻回にされているが、いただいたアンケートに事業所から返答していなかったため、貴重な意見に対して真摯に検討し、結果を伝えることを今後期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回フロアごと、全体でミーティングを開催し意見交換の場としている。また適宜個別面談、当社の職員満足度アンケート等を行い意見や提案を聞く機会としている。	事業所ミーティングは、当番となったスタッフ自らが、取り上げたいテーマを決めて司会進行している。働きやすい職場作りのために、スタッフの意見が反映できるような環境となっている。現場職員は本社職員との面談でも、意見が述べやすいシステムが確立されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課(誰伸び制度)での加点主義に伴う評価にて給与水準が決定する。毎年個別のシートを活用した目標設定を行い、面談にてフォローしている。また外部研修参加促進や資格取得に関するフォロー体制の環境整備を図っている。またミーティングや随時個々の意見を聞き業務改善することにより働きやすい職場作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また全社的に定年制度を撤廃しており、個人にあわせた働き方ができるよう勤務の調整を行っている。また、当社のほめる社風によりありがとう・ほめカードやコーチング研修等を通して、職員がやりがいをもって働けるように努めている。	スタッフは、毎年年間研修計画に基づき、研修に参加して知識研鑽を積んでいる。個人でも興味ある研修に参加をしている。23歳から75歳と幅広い年齢が同じ職場で介護の仕事に従事することで、より人権尊重の意識が芽生えている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	社内における人権研修の機会や日々の申送り・ミーティング会議等で人権侵害が起こらないようディスカッションしている。また社内の賞罰委員会での事案を通して、適宜各個人レベルでも人権尊重に対するの振り返りを行っている。	年に1回、必ず繰り返して人権研修を行う事で、介護現場での人権侵害に当たらないか日々の振り返りができている。他の施設での虐待、不適切ケアをスタッフに伝えて指導教育をしている。	地域密着型事業所が外部の方々に向けて、地域の介護力を上げていくための啓発活動として、現在事業所が行っている七隈カフェを使い、認知症への理解を求めることを発信する場となっていく事を期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内における決められた研修や随時開催される技術研修、外部研修など様々な情報を回覧板で提供し、機会の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区地域密着型サービス部会や他施設の運営推進会議に参加し交流しネットワーク作りを図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント等において、ご本人様の希望、想いが聞けるよう話しやすい環境作りに配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント等において、ご家族様の希望、想いが聞けるよう話しやすい環境作りに配慮している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様が。現時点で何を必要としているのか要望等の理解に努め、他のサービスも視野に入れながら対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護するのではなく、日常の手伝いやあいさつなど、その方にできる事を見つけていただきながら、一緒に生活するという目線で支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の状況に合わせて、密に連絡をとって関係づくりを図り、出来る事は協力していただきながら、共にご本人を支えていけるよう支援している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の店に買物や食事に出かけたり、地域のふれあいサロンに参加したりと、ご入居者様の希望をできるだけかなえられるよう努めている。	入所後の生活で出来るだけ多くの人と関わり、入居者が楽しい日々を送れるよう、外出支援を個別対応にして、以前の住居近くに家族同伴で行き、思い出を語っている。入居者の中には、友人が来設し喫茶店と一緒に行く方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間が間に入る、また配席を工夫するなどうまくコミュニケーションがとれ孤立しないように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、何か必要な際は相談や支援を行う事伝え、フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様等から情報をいただき、また普段の関わりの中で趣味、趣向を引き出してご本人様の希望に添えるよう努めている。また困難な場合は本人本位に検討している。	入居時や家族からの情報を元に、本音が聞き出しやすい入浴時や、ゆったりと関われる場面で、本人の意向を引き出すように心がけている。困難な場合は、表情や行動から推察している。情報は、日々の申し送りやミーティングで共有及び検討を行い介護計画へ反映している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族様、ご本人様との関わりの中で、情報を引き出し把握出来るよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申送りやミーティング、連絡ノート等を活用し、お一人様ごとの過ごし方、心身状態、有する力を把握出来るよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とのかかわりの中での気づきや、ご家族様、また往診等の医療連携での話し合いにより、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族からの意見・連携医からの意見を元に、毎月のスタッフミーティングや定期的なモニタリングにより、計画の実施状況や目標達成状況を確認し、次の計画を立てている。特に退院後は、入院中の情報と違う場合があり、現状に即した計画が作成できるよう、観察と情報の共有に力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録の他に、連絡ノートや往診ノートを活用し、職員間で情報を共有している。またミーティング時に介護計画について話し合い見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時から状態がかわればその都度、施設スタッフだけでなく提携機関に相談等しながら、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	カフェや地域行事への参加で関係づくりははかり、包括、地域住民他、様々な地域のマンパワーを利用できるように配慮している。ご利用者様にも自治会でのイベントに参加していただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と本人、家族の関係構築が図れる様に、希望を大切にしながら医療を受けられるよう、医療機関とのコ情報の共有化に努めている。(診療前の情報提供や日々の報告、相談等。また必要時Drと家族の面談の調整。)	現在は、入居者のほとんどが協力医の月2回の在宅診療を受けている。状態変化を見逃さず適切な医療が受けられるように、日々接するスタッフと訪問看護師との連携を密にしている。必要時は電話で家族に報告するが、緊急でない場合は、月末に他の書類と共に医療情報を知らせている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面で気づいた事は適宜訪問看護師や往診の看護師へ報告し、異常の早期発見・対応に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側へ入院前の施設内での健康面に関する情報提供、また面会時の情報は往診医や看護師、家族へ情報提供する等し、早期退院に向けて配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にあり方についてはふれ、その時期になれば早い段階から医療機関や家族、施設などで看取りの方針を決め、チーム内でその方針を共有しながら、本人や家族の希望に沿える援助が出来るように努めている。	過去に看取りを支援した実績はあるが、ここ2年ほどはない。独自の『重度化対応・終末期ケア対応にかかる指針』があり、それに基づいて支援できるようにしており、協力医や訪問看護師との連携体制も整っている。	定期的な研修は会社方針で行っているが、常勤の看護師がいないことと、スタッフメンバーの入れ替わりもあるので、本人や家族が更に安心感を持つような体制や現場スタッフの教育システム作りを期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生等に対する社内研修を通し実践力向上に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間・昼間想定での消防訓練を実施し、誘導順や行動などについてミーティングを行っている。	全職員は、消火器の使い方や避難誘導の仕方については繰り返し学習している。また、避難場所として隣接施設の協力が得られるようにしている。水や食料などの備蓄は3日分置いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時研修をはじめ、適宜接遇研修等を受講、伝達研修を行い、周知に努めている。また不適切な対応があれば適宜各々注意し、より良い接遇等に配慮している。	入社時や随時本社からの動画研修が入り、人権についての学習は度々行っている。問題の場面があったときはまず全体ミーティングで注意喚起を行い、改まらなければ個人に注意している。スタッフ同士で気をつけ合う風土もできている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りのことをご本人様に選んでいただくようにし自己決定できるよう働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ではなくご本人様本位でその方のペースに合わせたケアをできるよう心がけている。また決まった1日の流れではなくご本人様の意向に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容に加え、入浴後や外出時の洋服など出来る限り自身で選んでいただき好みにそった格好ができるように支援している。また月1回の理美容も利用している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事だけでなく調理レクや外食レク、サンドイッチの日を設け、お1人お1人の好みに合わせたものを提供している。またほぼ毎日、食事の準備、後片付けにはご利用者様も参加していただいている。	日頃の調理では、できる方には食材を切る・炒めるや後片付けなども積極的に行ってもらっている。スタッフも一緒に同じ物を食べるので、食を中心とした会話が盛り上がる。入居者全員に月ごとに変えた手作りネームプレートを置いている。月1回の七隈カフェの日には、ムースや蒸しパン等のおやつと一緒に作って提供している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食とティータイム、おやつ以外にも柔軟にその方の状態に合わせて必要な物を工夫している。必要に応じて看護師や主治医等とも相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアに加えて、毎週訪問歯科の往診を受けられる方などは歯科医師や衛生士により口腔ケアに関する助言をもらう等して、本人の口腔状態に適したケアに努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックや記録を参考にし、個人の排泄パターンを考慮した上で自立支援に向けたケアを支援している。またリハパン等は必要最低限にし、適宜カンファ等で出来る限り布パンツ+トイレでの排泄ができるようにしている。	排泄記録から個人のパターンを把握し、居室にはポータブルトイレを置かず、トイレでの排泄にこだわって支援している。便秘対策として、医師のアドバイスによる食事の工夫や腹部の温罨法などを行い自然排便を促している。リハビリパンツの使用が少なく、できるだけ布パンツで過ごせるよう、支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量、排便有無や形状、回数等の情報を記録管理しながら、適宜温めたり食べ物を工夫する等取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は設定しているが、体調や気分に沿って時間や曜日をずらす等、個々に合わせた支援に努めている。また変わり湯と題して、季節を感じられる入浴剤等を利用しながら入浴の更なる楽しみに配慮している。	利用者の希望を優先した個別対応支援を行っている。温泉気分を感じていただくために、季節の変わり湯として入浴剤を利用している。本人の思いや意向を聴き取れる機会として重視し、楽しい会話が弾むように心がけている。入浴後の皮膚にも注意して、必要時は保湿剤なども処方してもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明具合や室温等に配慮しながら個々の状況に合わせた支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を参考にしながら、適宜薬剤師や看護師等に質問や確認を行いながら、服薬支援を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動や園芸、創作、行事参加、外出、外食等、様々な活動を季節を通して実施し、各個人に合わせた役割支援、楽しみごとの支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの外出レクに加え、お一人様ずつ行う外出レクで思い出の場所や日頃から行きたかったところ等を選んでいただくことでも叶えている。	日常的には事業所前の神社へのお参りや買物等の外出を行っており、天気の悪い日には室内を歩いている。継続している季節行事としての集団外出レクに加え、毎月約3名ずつの個別の外出レクを行っている。自分だけの懐かしい場所や街並みを見ると表情がいきいきとして会話も弾む。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金庫での管理だが、預り金の中で、外出レク中の買い物など、自由に使えるお金の使用や管理を援助している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状をレクレーションで出している他、届いた手紙の返信や、電話の支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花や写真、カレンダーを飾ったり、テーブルに新聞を置く等して生活感や季節感を出している。また馴染みのある音楽をかけ居心地よく過ごせるような工夫をしている。	広々としたリビングダイニングには、自然光が入る窓側に、ソファやテレビコーナーが設けており、会話を妨げない懐かしい音楽が流れている。加湿付空気清浄機を置き、不快な臭いもない。介助しやすい可動式の浴槽がある浴室で、脱衣所とトイレは繋がっており、プライバシーを気にすることなく行き来ができる。掲示板には年間行事表が大きく貼ってあるので、利用者や家族にも見通しが立てやすい。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席やテーブル席等、思い思いに1人や仲の良い方同士で過ごしていただける環境作りをしている。また必要時にはスタッフが間に入ったり配席を工夫しお互いに居心地の良い空間になるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットとベッド以外は全て持ち込みの為、ご本人様の使い慣れた、また思い出の家具や飾りを使用し、居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。	入居前の使い慣れた持ち込み家具があり、入居後の手作り作品や、笑顔の写真が飾っており、心地よく過ごせるような雰囲気が感じられる。週1回のシーツ交換日はスタッフと一緒に室内の清掃をおこなうこともあり、室内は清掃が行き届いている。個人の加湿器が各部屋に置いてありインフルエンザの感染予防に繋がっている	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮した環境の中で、できること・わかることを踏まえ自立支援を行っている。		